

令和8年度 第1回 長岡京市男女共同参画審議会 会議録

- ・日時

令和8年7月15日（水）午前10時～午前11時50分

- ・場所

長岡京市役所8階 会議室801

- ・出席者

川口会長、表副会長、足立委員、太田委員、上子委員、熊谷委員、里内委員、寺嶋委員、藤井委員、松尾委員、山本委員（会長・副会長以下50音順）

- ・欠席者

高間委員、村上委員

- ・事務局

木村（対話推進部長）、馬場（男女共同参画センター所長）、天野（男女共同参画センター男女共同参画・交流支援係長）、北川（男女共同参画センター男女共同参画・交流支援係総括主査）

- ・傍聴者

3名

- ・配付資料

資料1 長岡京市男女共同参画計画 第7次計画 令和7年度進行管理報告書（案）

資料2 長岡京市男女共同参画計画 第7次計画 令和7年度事業チェックシート（案）

資料3 令和7年度 長岡京市男女共同参画センター事業報告

資料4 令和8年度 長岡京市男女共同参画センター事業計画

1. 開会

（男女共同参画センター所長）

本日は、高間委員、村上委員が欠席である。長岡京市男女共同参画推進条例施行規則第8条第2項により、本審議会の会議定足数である『委員の過半数』を満たしているため、会議の成立を報告する。本日の傍聴者は3名である。

2. 市長挨拶

今回委員の改選ということで、新たにお引き受けをいただいた方、引き続きお世話になる方に感謝申し上げます。

市長に就任して約10年が経過し、常に市政の中で言ってきたのが1つ目に「定住の促進」、人口減少時代においても、8万市民をしっかりと維持していくこと、2つ目に「交流の拡大」、単に住んでいる人だけではなく、地域の外からも色々な方々に長岡京市に来ていただき、活動していただくことで長岡京市の活力を生み出していくこと、3つ目に「まちの新陳代謝」、市制50年を超えてまちもだんだん年をとってきたので、新陳代謝をしっかり図りながら様々な今日的な課題に対応していくこと。

今年から本市では、第4次総合計画第三期基本計画の5年のまちづくりがスタートし、期を同じくして男女共同参画計画第8次計画も今回新たにスタートした。今の社会全体の課題となっている少子化に対しては、色々な政策がある中でも男女共同参画社会の実現のための取組を進めていくことが何よりも核心に近いのではないかと考えている。男性も女性も働きやすい、また生きづらさを抱えない、そんな社会を作っていくために、審議会の委員の皆さまには様々なご意見を頂戴できればと思っているので、よろしくお願いしたい。

3. 委嘱状の交付

市長より足立委員に委嘱状の交付（他の委員は机上配布）

4. 委員の紹介

（委員自己紹介）

5. 会長・副会長の選出

委員の互選により選出すると定められている。

委員より、会長に川口委員、副会長に表委員との推薦の声が上がる。

一同賛同（拍手）により決定

・川口会長挨拶

私はこれまで4期8年委員を務めさせていただいた。この間、審議会委員の皆さまにはジェンダー問題についてとても熱心に議論をしていただき、私も非常に勉強になった。委員の任期は5期10年まで、あと1期2年で最後になるが老骨に鞭打って頑張るのでよろしくお願いしたい。

・表副会長挨拶

長岡京市はとても熱心に男女共同参画の活動をされているので、とても勉強になってい

る。あと2年精一杯務めたいと思っているので、よろしくお願いいたします。

- ・事務局職員の紹介

- ・配付資料の確認

事前送付資料：次第、委員名簿、資料1～資料4

(事務局)

審議会は原則公開である。審議会の内容は発言者名を伏せて、審議会委員名簿は所属団体名と氏名を、市ホームページ上で公開することを了解いただきたい。会議録作成のため録音させていただく。このあとは会長に議事進行をお願いする。

6. 案件

(1) 男女共同参画計画 第7次計画の進行管理報告について

(事務局から説明)

資料1「令和7年度進行管理報告書(案)」について説明。

各委員の意見(概要)は次の通り。

- ・P4活動指標①

ホームページにおける市の「男女共同参画」ページへのアクセス数、令和7年度は目標値を達成しているが、令和4年度を境に下がってきて、令和7年度は令和4年度の約半分になっている。その理由を知りたい。

→令和5年に市HPをリニューアルした。リニューアル前は見たいページへ段階的に入っていく方法だったが、リニューアル後は検索によりダイレクトに見たいページへ辿り着けるようになったため、アクセス数は下がってきている。

- ・P6活動指標④、P7活動指標⑤など

意識啓発の指標が回数。計画に沿って実施できたかどうかという点では回数も必要だが、意識啓発の点では、例えばアンケートで「どれだけ意識が変わった」や「どんな風に思うようになった」など、記述式も含めた内容を捉えることで、5年間の行動変化の比較ができるのではないかと。回数を目標にしても、アンケートの中身も記入することで、より成果が分かると思う。

→各講座でアンケートを取っているため、担当課所見欄に追記する。8次計画でも活動指

標⑤については目標値を人数にしているので、担当課所見にアンケート内容を入れて報告する。

・P9 活動指標⑦

審議会への女性委員の参加比率、令和7年度の44.6%はかなり高い比率だと思うが、割合が低い分野が限定されているので、そういうところの女性委員比率を今後どう上げていくのかが次の目標になると感じた。

→各課から審議会委員の事前協議をしてもらう中で、専門分野への女性の進出が少ない状況だと聞いている。昨年、男女共同参画センターで初めて「リケジョ」の講座を開催した。女性が各分野へ進出していけるような講座などを今後も実施し、将来に向けて女性の活躍を後押ししていきたい。

・P10 活動指標⑨

男女共同参画フロア（いこ〜る）の承認団体はどのくらいの世代の方々が活動しているのか知りたい。

→代表の方は40代以降の方が多く、活動内容は子ども向けリトミックなど、子どもから大人まで幅広い世代の方が参加されている。

・P16 活動指標⑰

子育て応援教室の参加率、令和7年度31.7%とあるが、分母と分子を教えてほしい。

→分母は妊娠している人の数、分子は参加者数で計算していると思われる。

・資料1 全体

令和7年度の結果を見ると、前年度より下降している指標が7つ、変わらない指標が4つ、上昇しているのが6つ。目標というのは上に上がっていかうとするものだが、株式市場のニュースで言うと、値上がり6、変わらない4、値下がり7と、どちらかと言うと相場が崩れたと。1年間だけの結果から見ているからかもしれないが、全体として思いつく理由があれば教えてほしい。

→講座の指標を測ることが多く、講座に来られる方や講座の内容はその都度違うので、参加された際の印象などが影響しているのではないかという印象を受けている。

・P9 活動指標⑦

審議会への女性委員の参画比率が40%~60%の割合、令和7年度が56分の25となっているが、P18の表を見ると23ではないか。その中に65%が3つ入っているので、厳密に言うとは20ではないか。

→P17の注意書きに記載しているとおり、委員総数3人の場合、1人または2人が女性で

あれば 40～60%に該当するという考え方で集計している。これに基づき数えると令和 7 年度は 56 分の 25 となる。

- ・ P 6 基本目標Ⅱ 取組方針 3 子どもにとっての男女共同参画の理解促進 施策の方向 6
長岡第三中学校の夏の制服にハーフパンツが導入されたことが、ジェンダーフリーの観点から大きなことなので、どこかに入れられないか。

→令和 8 年度に実施された内容なので、今回の令和 7 年度の報告に入れるのは難しいが、担当課の意見を聞きながら、男女共同参画センターで発行しているセンターニュースで扱えないか検討する。

【審議会後担当課確認】今回、長岡第三中学校の制服にハーフパンツを導入した主な目的は「暑さ対策」であり、市内の四つの中学校では、従前よりジェンダーフリーの観点から制服が選択できるようになっている。

- ・ P10 活動指標⑩

女性活躍に関する支援の指標について、参加人数よりも、参加して何が変わったのかという部分の方が大切なので、そこをすくい上げるアンケートにしてほしい。長岡京市は女性の起業が非常に多く、特に小さい身の丈起業が多いので、そういった方の事もすくい上げてほしい。

→女性活躍推進講座は、市内で起業されている方を講師にお招きし講演してもらっている。起業経験者の生き方を学んでいただける機会を引き続き提供していきたい。講座受講者には女性活躍への意欲が高まったかどうかをアンケートで聞いているので、その内容を担当課所見に追記する。8 次計画からは審議会の意見を受けて、指標を「参加者人数」から「アンケートで女性活躍への理解や意欲が高まったという回答が 80%を目指す」という内容に変更している。

- ・ P11 活動指標⑫

男性に向けた男女共同参画に関する意識啓発の回数、目標値 5 で現状値 4。活動はされていると思うが、育休中のパパが交流できる居場所がなく、ママではなくパパの孤独な子育てが問題になっている。パパの居場所を作っている子育て支援の事務所もあるので、その活動もどこかですくい上げてほしい。

→令和 7 年度に男性支援講座として「パパが学ぶ整理収納術」の講座を実施し、講座後にはグループに分かれて交流する時間も設けた。今後も育休中のお父さんの居場所や交流の機会を作っていきたい。

- ・ P 6 活動指標④、P13 活動指標⑭

目標値と令和 7 年度の数値から、目標値に達しなかったという見方で合っているのか。

若年層への啓発は大変大事だと思うが、結果をどう分析しているのか。

→活動指標④は令和5年度までは男女共同参画センターで「性の多様性」を所管し、出前授業もしていたので達成していたが、令和6年度からは他部署にその仕事に移管した。測る指標の担当課が男女共同参画センターになっており、他部署の回数を足していないので未達となっている。活動指標⑭の中・高・大学生への啓発は働きかけをしているが、中学校で啓発できる機会が得られず未達になっている。引き続き働きかけていく。

- ・未達について、他部署が管轄になったり、中学校で機会が得られなかったりということだが、そもそも中学の先生方がその時間をとることに消極的なのか、理解が及んでいないのか、そのあたりの分析や対策をもう少し教えてほしい。若年層への教育は大変大事なので、そこはかなり力を入れるべきである。家庭で親世代からのジェンダーバイアスが受け継がれてしまう可能性もあるので、新しくアップデートした知識を若年層に届けるのが大事。

→中学校にはデートDVを主とした出前授業のカリキュラムを作っており、毎年校長会で実施の依頼をしているが、学校では「生命と安全の教育」に基づいて既に同様の授業を実施しているため、学ぶことが多岐にわたり多忙な子どもたちに、あえてもう一回この機会を設けることはハードルが高い状況になっている。各高校にも従前から働きかけをしているが、2時限分の時間を特別にとることに対して、ご理解をいただくのに苦慮している。引き続き男女共同参画センターとしては学校側の意向に沿うようなものを作っていきたい。授業が難しければ違った形での啓発活動やアプローチ方法も検討していく。

- ・人口減少社会において男女共同参画はとても大切で、子どもたちの人格形成も重要なことなので、違った形の一例として教員研修はどうか。保護者もそうだが先生方自身が、子どもたちにジェンダー意識を教えてしまうという、ヒドゥンカリキュラム「隠れたカリキュラム」と言われているようなことがある。教員の方自身がアンコンシャスバイアスを持っている実情もあるので。

→そういう機会を設けてもらえるか、教育委員会に確認する。

- ・例えば、30分や40分の時間が取れないなら、5分でも10分でも提供できるコンテンツ等を検討して、「生命と安全の教育」に差し込んでいただけるようにプレゼンしていく必要があるのかなと。

→教員研修や、5分でも10分でも提案できるコンテンツがないか検討していきたい。

・P9活動指標⑧

長岡京市の女性管理職の割合、令和7年度34.7%とあるが、前提として全体の職員の内の女性職員の割合が何%なのか。それと比較して分析していく必要がある。

→P20、2つ目の表に数字を載せている。

- ・この表から普通に考えると管理職割合も50%になるはずだと思うが、目標を30%とし、現状が30数%になっているのは過渡期の段階だからか。女性の採用が少なく、その育成

に時間がかかっていて自然増を待っている、そんな流れと理解すればよいのか。

→第8次計画の目標は40%としている。表を見ていただいたら、管理職は34.7%だが、その下の監督職は48.1%となっているので、まずは40%を目指していきたい。

・特に積極的に是正する措置をとるというよりは、女性の育成を男性と同じようにする、疎外をしない、そういう選択をしているという理解でよいのか。

→是正するというのではなく、男性も女性も能力に応じて管理職に登用している。

・P9に性別に関わらずと書かれているとおり、特に女性を優遇するわけではないけれど、男女関わらず正当な評価をしていく、それによって自然増を見込めるということか。

→おっしゃるとおり。

・P11 活動指標⑫

男性に向けた男女共同参画に関する意識啓発の回数、担当課所見で「男女共同参画センターではシニア男性向けに簡単な筋力トレーニングと呼吸法を学ぶ講座を実施し、健康増進と生活習慣病予防の支援を通じて健康で安心して生活を送る地域社会の実現に寄与しました」とある。健康で安心な生活を実現という点では意味のある講座だと思うが、活動指標⑫「男女共同参画に関する意識啓発」の講座であるという位置づけが、どういう理解によるものなのか説明を足してほしい。

→基本目標Ⅲ「あらゆる分野における女性活躍の推進」の中の取り組みであり、家にいる男性が多くなった時、社会に出ていく一つのきっかけが必要だと前回の審議会でも意見をいただき、この講座を計画した。男性が外に出ることで女性も活躍しやすくなるという考えからこの担当課所見を書いているが、地域活動への参加促進の内容を含めた形に修正したい。

・今の趣旨は大切だとは思いますが、指標の「男性に向けた男女共同参画に関する意識啓発」との関連性がわからない。所見の表現を変えることで、結びつきがある企画だと思えるのであればそれも一つだが、もし関連性がわかりづらい、結びつきがないというのであればカウントすべきではないのでは。

→P8の取り組み方針8「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の実現」、施策の方向18「男性の子育て・家庭生活・地域活動への参加促進」、この大きな枠組みの中の取り組みの一つとして講座を実施しているが、担当課所見の内容では結びつきがわかりにくいので、文言を追加する形で修正したい。

・資料1全体

各項目の目標値の決め方はどのような方法なのか。

→過去の実績を用いて、今後5年間の推移を測る形で決めているが、今年度からスタートした8次計画の目標値は、昨年度の審議会での審議を踏まえて定めている。他課の目標値は、他課で計画を策定していればその数値にしている場合もある。

・P15 活動指標⑩

乳がん検診受診率の目標値が 13.8%とあるが、低いのではないか。

→健康づくり推進課の計画で目標値を定めていたと思うが、市で把握できるのが国保加入者の数字であり、国保以外の健康保険で乳がん検診を受けている数字は把握できないため、どうしても低い数字になる。分母が対象者全員の人口で割り戻すので、働いている人が多くなればなるほど目標値は低くってしまう。

・乳がん検診について「国保に加入している人の受診率」と記載してはどうか。

→備考欄にこういった形で入れられるか、担当課と調整する。

【審議会後担当課確認】備考欄に「市が実施する乳がん検診受診率の目標値であり、市の検診以外の受診数は含みません」と追記する。

・資料 1 全体

どの項目に対しても担当課所見で締めくくられているが、啓発活動に参加した市民の学んだことによる行動や心理的な変化の具体的な声が載っていない。啓発活動をされてきたことによる意識の変化が及んだ成果は数字だけでないので、具体的に載せてほしい。

→アンケート内容を所見に追記する。

(会長)

「長岡京市男女共同参画計画第 7 次計画令和 7 年度進行管理報告書（案）」について、本日の審議内容を受け、最終案は私に一任ということでよろしいか。

一同承認

(2) 男女共同参画計画 第 7 次計画の事業チェックシートについて

(事務局から説明)

資料 2 「令和 7 年度事業チェックシート（案）」について説明。

各委員の意見（概要）は次の通り。

・事業番号 47

市内事業所ネットワーク研修会、1 年間の開催回数は。取組は何年ぐらい継続しているのか。

→年 1 回開催しているほか、共有したい情報があればその都度メールでやりとりをしている。立ち上げは平成 29 年度、まずは 1 社とスタートし、令和元年度に 5 社、令和 3 年度

に 7 社が新たに加盟し、令和 4 年度と昨年度にも 1 社ずつ増え、現在 15 社を対象に研修会を実施している。

- ・メールでのネットワークは、適時、事業の枠を超えて担当者同士でやりとりができるようなメーリングリストがあるということか。

→メールアドレスを情報共有しているわけではなく、市が軸となってやりとりをする形になっている。国や府からの情報を流したり、市が実施するワーク・ライフ・バランス等の講座があれば情報提供したりしている。

- ・参画する事業所を増やすための広報活動は。

→チラシや広報に載せても新規の加入を得るのは難しいので、各事業所に個別にアポを取って趣旨などを説明しに行き、ご理解を得て加入していただくという地道な取組を続けている。

- ・現在の 15 社の他にも、長岡京市内で入ってほしいと思う事業所はどれくらいあるのか。

→100 人以上規模の事業所を中心に声かけをしているが、中には理解を得られない場合もある。

- ・地道な努力が結実している結果だと思うが、社数を増やすためには、次の階層として数十人規模の事業所でもこういうネットワークづくりのような話が出てくれば良いと思う。事業所を超えたネットワークは大事だと思うので、ぜひこの取り組みを続けて、拡大していったほしい。

(会長)

「長岡京市男女共同参画計画第 7 次計画令和 7 年度事業チェックシート（案）」について、審議会として承認するということによろしいか。

一同承認

7. 報告等

(1) 長岡京市男女共同参画施策について

(事務局から説明)

資料 3 「令和 7 年度 男女共同参画センター事業報告」、資料 4 「令和 8 年度 男女共同参画センター事業計画」について報告。

各委員の意見（概要）は次の通り。

- ・ 6 月 30 日の男女共同参画週間事業と 7 月 9 日の女性活躍推進講座を受講したが、両方と

も素晴らしい講座だった。参加者の声を紹介する。週間事業は「いけばなは女性の文化だと思っていたのに、実は男性発祥だったのが目からウロコだった」、女性活躍推進講座は「長岡京市で初めての女性の自治会長会会長が、これまで取り組まれてこられた話を聞き、その活動が他の自治会にも波及し、自治会の女性役員が非常に増えてすごく楽しい」というような声を聞いた。それからもう一つ、センターの相談事業の中の「女性のカウンセリングルーム」を5年ほど前に受けた方が、相談を契機に独り立ちし、活動の幅を広げられていることを報告しておく。

- ・せっかく素敵な講座をされているので、審議会委員にも情報提供をしてもらえると、報告を聞いた時により自分事として考えられるし、勉強にもなると思う。

→今後は委員の皆さまにも講座の情報共有をさせていただく。

- ・資料3の事業報告の決算額と、資料4の事業計画の予算額に差があるのはなぜか。

→昨年度は男女共同参画推進計画策定の業務委託費用や、審議会を例年より多い年3回実施した費用が金額にのっているなので、その差が出ている。今年度の予算額が例年予算計上している額である。

8. その他

特になし

9. 閉会

対話推進部長より挨拶後、閉会。